

当院での前立腺がんに対する ロボット支援手術の取り組み

第二泌尿器科部長 小林 直人

近年、PSA検診の普及や前立腺がんの認知度の向上などから、早期にがんが発見される患者さんが増加しています。前立腺は、男性の精液を作っている臓器で骨盤の底に位置し、その周囲は血管や神経、尿道括約筋などの重要な構造物が存在します。これらの構造物は、すべてその損傷により術中出血や術後の尿失禁・勃起機能低下などの合併症を引き起こします。早期がんに対する手術治療として前立腺全摘除術が挙げられますが、開腹下での場合出血が多く、操作腔が非常に狭いなどの難点がありました。その後画像を通して広い視野が得られ、傷が小さく気腹圧により出血も少ない低侵襲治療法として腹腔鏡下手術が広まりましたが、鉗子の動きが制約されるなどの手技の難しさがあります。

平成24年4月ロボット手術が保険適応になり、当院では平成26年9月からダヴィンチSを導入しています。術者は患者様から離れた場所にあるコンソールに座り、三次元モニターを視認しながら操作用手術ロボットを遠隔操作します。高性能3Dハイビジョン画像で肉眼の10倍の良好な視野で手術を行え、ロボットの鉗子は自由度の高い関節をもち、人間の手以上の複雑で繊細な動きが可能となり、剥離、切断、縫合などのすべての操作を高い精度で行うことができます。もちろんロボットが勝手に動いて手術をしてくれるわけではありませんので、術者の経験や技量は重要です。当院では平成30年4月までに約110例

行い、小野部長は当手術の指導医(プロクター)資格も有しています。

我々の治療目標として、「前立腺癌が根治できること」、「周術期合併症が少なくより安全・確実に施行できること」だけではなく、さらに「術前と比較して生活の質が変わらないことを出来る限り目指すこと」を非常に重視して手術に取り組んでいます。神経温存術式はもともと勃起機能の温存を目的としていましたが、現在これが術後の尿失禁に重要なかわりを持つことが分かってきています。従来の癌が出ていない側は温存、出ている側は非温存というシンプルな分類ではなく、それぞれの患者様に、MRI画像や組織の悪性度・検出部位などの結果などに応じ、可及的最大限度神経温存ができるような4段階術式を取り入れて術後早期の尿禁制回復を図っています。

早期の前立腺がんには、放射線治療や薬物加療などの治療選択肢もあるため、それぞれの患者様の希望も含め最適な治療法を相談して行っています。気になることがありましたらご相談ください。



がん相談支援室のご案内

【がん相談支援室とは】

当院でがんの診断・治療を受けている患者さんやご家族の方に支援する「がん相談窓口」です。

患者さんやご家族の方が、「安心して」「納得のいく」医療が受けられるように、がんに関する情報を提供したり、相談にお応えします。がん診療に関わる認定看護師が、信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般に対するさまざまな質問や不安、相談をお受けしています。また相談の内容に応じて、医事課、ソーシャルワーカー、入退院支援、薬剤師、栄養士など専門スタッフが対応できる連携体制を整えています。

【相談内容について(例えば)】

- ・がん治療について
- ・療養生活について(治療の副作用、生活面への影響、過ごし方)
- ・心の悩み(気持ちの落ち込み、思いを聞いてほしい)
- ・医療者とのコミュニケーションについて
- ・緩和ケアについて
- ・セカンドオピニオンについて
- ・社会との関わり(仕事と治療の両立)
- ・家族との関わり
- ・経済的負担や支援について



がんに関する一般的な医療情報や資料、パンフレット、書籍をそろえています。
がんに関連する講演、講習会など各種ご案内をしています。
ご遠慮なく、お気軽にお立ち寄り下さい。

【がん相談窓口について】

- ・受付場所 9:00～12:30(月曜～金曜)
- ・場 所 がん相談支援室(1階正面玄関の左側)
- ・相談方法 面談または電話相談 0857-24-8111(代)
(がん相談支援室)

※直接、相談窓口にお越し下さい。

- ※事前の受付もできます。その場合、優先して対応致します。
- ※受付時間以外の相談については、調整を致します。
- ※入院中の場合は、担当者が病棟に訪問して、相談をお受けします。

病棟スタッフに申し出て下さい。

- ※希望の時間に対応できない場合もあります。ご了承下さい。
- ※相談者のプライバシーに配慮し、個人情報や相談内容は遵守致します。

